

男女それぞれ、心の声

— 街のつぶやきを集めてみました —

●(40代・男性・自営業・子ども3人)

「名もなき家事」という言葉を初めて聞きました。今は靴をみがいたりゴミをまとめたり自分のできていることをしていますが、これからも積極的にかかわっていきたく感じました。

●(50代・女性・パート・子ども3人)

もはやあきらめの境地。家族には家族の生活（夫には会社、子どもには学校）があるのだからと思い直し、主婦である自分の仕事、と思ってこなしています。でも、無理はせず、できないことは放置することもあります。

●(40代・男性・会社員・子ども3人)

各家庭で話し合っって個々が出来ることをすればいいのでは？正解はひとつではない気がします。

●(30代・男性・会社員・子どもあり)

時々、相手の好きなおやつを買ったりしています。「名もなき家事」については初めて知りました。家事は気持ちよく暮らす上では必要なこと。名もなき家事は大変だとは思いますが、苦ではないと思うので、相手には最低限のことはやって欲しいです。

●(70代・女性・専業主婦)

せめて身の回りのことくらいは自分でと言い聞かせていますが、うまくいかないのが現状です。高齢になると生活のリズムや役割を変えるのは難しいと感じます。

●(40代・女性・パート・子ども2人)

こんなにも自分は家の中でも働いているのかと思います。知り、家の中の性差別では？とも感じました。しかし、そのような環境になってしまった要因は自分にもあるのでは？とも思います。せめて自分の息子はそうならないように今から声をかけていきたいです。

●(30代・女性・専業主婦・子ども1人)

共同生活しているのだから、家族みんなが当事者。気づいた人がすぐやるように心がける、そういう気遣いが家族全員にあるといいと思います。

●(50代・男性・会社員・子ども3人)

広く多様性や男女平等が叫ばれる現代社会で家庭内だけが取り残されている気がしました。男女関係なく家事は積極的にかかわるべきだと感じます。とはいえ、自分もまとめられたゴミを出すだけで、やっける気持ちになっていました。反省です。

●(40代・女性・会社員・子ども1人)

家事の分担はほとんどなく、ほぼ自分でこなしています。相手にも手伝って欲しいですが、言われるとやりたくなる人なのでなかなかうまくいきません。

●(30代・女性・会社員・子ども2人)

お互いに気づいたときにフォローしあうという意識を持っていればいいのか。負担が増えすぎないように、無駄な家事は減らしたり諦めたり話し合ってみたいです。

『名もなき家事から見えてきたものは？』

「名もなき家事」というだけあって、日常には実態の見えづらい大小の雑務があふれています。当たり前のように清潔な部屋で温かい料理が出てきて、洗濯物がきちんとタンスにしまわれ、消耗品は常に補充してあり…といった快適な生活を実現しているのは、細々と日常を支えている人がいてこそ。そこに気づいて労いの言葉をかけたり、可能な限り家事を分担したり。家事は決して女性だけのものではありません。お互いを思いやるだけでぐっと気持ちが楽になり、家の中も心の中も風通しが良くなっていく気がします。「いつもありがとう」の一言で、気分ってけっこう上がるものです。もちろん、体も心も疲れ果て、いつもの日常を継続することがままならないこともあるでしょう。家族が落ち込んだり悩んだりすることだってあるでしょう。そんな時こそ助け

合って自然にお互いを支えあえたら…。それはとても素敵な家族の形ですね。

「名もなき家事」について様々なご意見をいただき、家事だけにはとどまらない家庭内の不満や家族への感謝や喜びといった見えない感情への“気づき”がありました。そしてその“気づき”は、生活を営む上でとても大切なことなのでは？と感じました。

今年の特集は、女性だけでなく多くの男性にも是非読んでいただきたいと思います。名もなき家事にスポットを当てることによって、思いがけず、それぞれの家族・家庭のありようさえも見えてきた気がします。

多忙な日常にまぎれると、つい後回しになってしまふ思いやりの気持ち。あなたの家族の見えない心のうち、気づいてあげられますように。

column